

ネパール大地震のニュースを見て、すぐに頭に浮かんだのはネパール出身のクラスメイトの事でした。ネパールには友達も親戚もいると聞いたことがあったので、現地の人たちがとても心配になりました。見ず知らずの人の無事をこんなに祈ったことはありませんでした。そんな私たちの様子を察した先生からきっかけをいただき、生徒会で話し合いを重ねました。

現地でお手伝いしたいくらいの気持ちはありましたが、自分達のできることからやろうということで、文化祭で募金活動をするようになりました。募金活動の準備を進めていく中で、ネパールでは、人口の半分が18歳以下だと知りました。私たちと同年代を含む子ども達の力に少しでもなれたらとの思いから、義援金はユニセフの「ネパール大地震緊急募金」を通じて役立ててもらうことに決めました。

定時制生徒会で話し合いを重ねましたが、募金活動が本当に成功するか不安も大きかったので、思い切って全日制生徒会にも協力をお願いすることにしました。全日制生徒会は、このお願いを快諾してくれました。そして、文化祭の運営準備で忙しい中、成功に向け真剣に考えてくれたのです。特に、文化祭で使う金券でも募金できるようにしてはどうかというアイディアは、「自分達のできることから助け合い」という今回の募金の趣旨に合致したすばらしいものでした。同じ学校に通っていても、今まで全く接点が無かった全日制。そんな全日制と定時制の生徒が一丸となって募金活動に取り組めることに、とても勇気づけられました。

文化祭当日、私たちが持った募金箱の前に、全日製の生徒、定時製の生徒、保護者の方々をはじめ、多くの方々が訪れてくれました。貴重なお金や金券を気持ちよく募金してくださったり、「がんばってね」と声をかけてくださったりと、多くの温かい心に触れました。文化祭後、全日製の金券換金日にも募金を行いました。ここでも多くの金券・募金が集まりました。

結果として17万円以上の義援金が集まりました。これだけのお金が集まったことは予想外でありとても嬉しいことだったのですが、なにより嬉しかったことはこれだけの人々がネパールのことを思い、心配してくれたということです。皆さんの気持ちに感動しました。本当にありがとうございます。

今回のネパール大地震募金活動で、人々が助け合うことの素晴らしさを体験しました。日本でも様々な災害は突然襲ってきます。この文章を考えている間にも、同じ茨城の常総市で水害がありました。全日制生徒会では募金活動がはじまりました。定時制でも何かできないか話し合っています。これからも人々が助け合えるような社会になったらいいという願いを込めて、仲間への呼びかけや、様々な活動をしていこうと思います。

